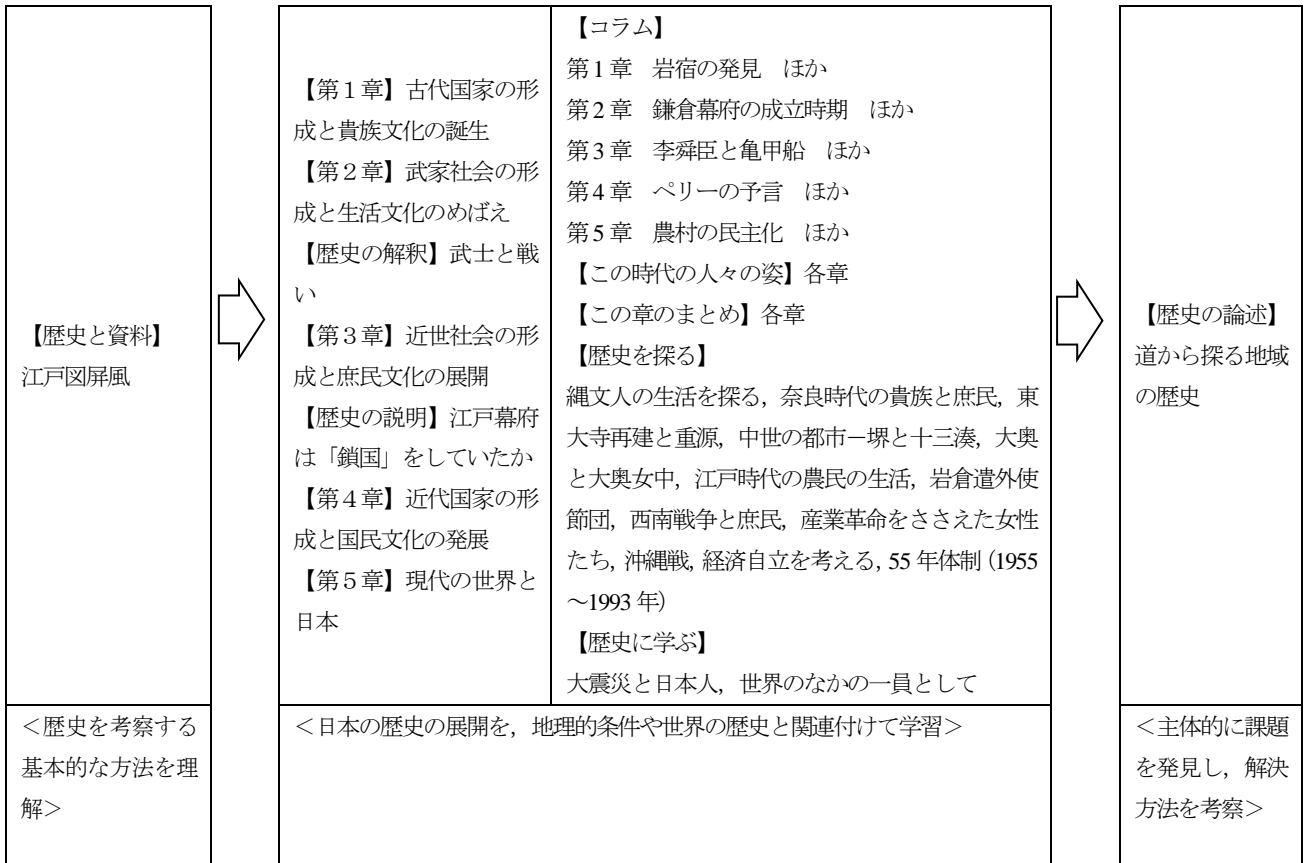


日本史応用	単位数	2 単位
	学科・学年・学級	地歴科 第3 学年 1 組
使用教科書，副教材等	東京書籍「新選日本史 B」（日 B310） 帝国書院「図説日本史通覧」	

### 1 学習の到達目標

- ①我が国の歴史の展開を，諸資料にもとづき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察する。
- ②各時代の特色とその変遷の総合的考察を通じて，我が国の文化と伝統の特色についての認識を深める。
- ③歴史的思考力をつちかい，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

### 2 科目の特色



<p>歴史探求の方法</p> <p><b>【歴史の解釈】</b> 諸資料を活用して，歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈する。</p> <p><b>【歴史の説明】</b> 複数の歴史的解釈について，それぞれの根拠や論理をふまえて説明させる。</p>
---

### 3 学習の計画

1 学期	4 月	第1章 古代国家の形成と貴族文化の誕生 ①原始社会の生活と文化 ②農耕社会の形成と大陸文化の摂取
	5 月	③律令国家の形成と古代文化の展開 ④摂関政治と文化の和様化
	6 月	第2章 武家社会の形成と生活文化のめばえ ①中世社会の成立 ②武家社会の形成と東アジア
	7 月	第3章 近世社会の形成と庶民文化の展開 ①ヨーロッパ文化との接触②幕藩体制の成立
2 学期	9 月	②幕藩体制の成立 ③近世社会の発達と町人文化 ④幕藩体制の動揺と庶民文化の発達
	10 月	第4章 近代国家の形成と国民文化の発展 ①開国から明治維新へ ②立憲政治の形成と国民文化
	11 月	③日本の近代化と東アジア ④デモクラシーと第一次世界大戦 ⑤激動する世界と日本
	12 月	第5章 現代の世界と日本 ①占領と国内改革 ②国際社会への復帰と高度経済成長
3 学期	1 月	③石油ショックと低成長の時代
	2 月	④新しい国際秩序と日本の課題

#### 4 評価の方法

##### (1) 評価の結果を生かす

評価は自分自身の学習の成果を確認するためになされるものです。このことをしっかり確認し、不十分な点があればその後の学習につなげること。そのためにも、返却されたテストやレポート、自己評価などの見直しを徹底すること。

##### (2) 評価の観点

評価は学習で身に付ける力を次の四つの観点から行う。

関心・意欲・態度	○歴史的事象と現在との結び付きを意欲的に調べ、考え、歴史を学ぶ意味に気づき、関心をもって主体的に学習に取り組んでいるか。 ○現代の社会が抱える諸課題について、平和で民主的な世界、地域、国、社会を形成していく主体としての自覚をもって考える態度を身に付けているか。
思考・判断・表現	○日本の歴史の展開から課題を見出し、世界の歴史や国際環境等と関連付けて、実証的、多角的、多面的に考察しているか。 ○歴史的に形成された諸課題について、さまざまな理解・立場があることをふまえて、公正に判断しているか。 ○課題についての考察や判断の過程や結果を、適切な方法を選んで効果的に表現しているか。
資料活用の技能	○日本の歴史を考察するために必要な諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができるか。 ○得られた資料や情報を効果的に活用し、歴史を探究する学び方を身に付けているか。
知識・理解	○基本的な歴史事象に関する知識を身に付け、各時代の特色を理解しているか。 ○日本の歴史の展開を、地理的条件や世界の歴史と関連付けて理解しているか。

##### (3) 評価の時期と方法

ア 年5回の定期考査では、ペーパーテストによって出題範囲における習得の状況の評価する。

イ 「歴史の解釈」「歴史の説明」をはじめとする課題学習の際のレポートは、評価のための資料とする。課題の設定・追究学習を行う際には、「歴史の論述」を参考にすること。

ウ 学習活動の様子や発表、討論などの様子を評価のための資料とする。

エ 自己評価、振り返りシートを評価の参考とする。

##### (4) 評定について

評定は、上記の方法で得られた評価に関する情報を総合的に判断して行う。